

第43期通常総会が開催された

5月25日(木)16時30分からメルパーク横浜で開催された**通常総会**は、出席39(うち委任状3)で定足数を満たしているとの報告により小原理事の司会で始まった。岸部理事長の議長により第1号議案28年度事業報告及び決算、第2号議案29年度事業計画及び予算案など5号議案まで全会一致で承認された。総会前



には**全構協からの情報連**

絡として岸部理事長から全構協が建設産業専門団体連合会から脱退、建設業法業種区分での業界名称の分離独立の検討が始まる、鉄骨技術研究開発助成制度は初年度なのでいまだ応募がない、鋼材識別統一化には表示板を夏ごろには作成配布する、JASS 6改定に伴い基準マニュアル集の改定CDを来年3月ごろ配布するなど伝達された。また、**技術講習会**として東



構塾塾長の古藤凱生氏による「鉄骨加工の問題点」の講演があった。講師の長い鉄骨製作の経験から、

JASS 6 基準などでなくファブの手による鉄骨品質管理上の基準の確立が急務であることが示唆された。



要旨は別掲する。総会後には**賛助会員を囲んでの交流懇親会**が挙



行された。途中賛助会員の皆様からの近況情報などが提供され、和やかなうち19時前に散会した。

役員会だより

総会に先立って12時から同会場で5月度役員会が開催された。

- ・(有)平技建(古郡直彦代表取締役。相模原市中央区田名)の6月からの入会が全会一致で承認された。
- ・30年度県予算要望の内容について精査し、S造化の推進と現場工事従事者の法定福利費支払いの徹底の2点を要望することに最終決定した。
- ・東京湾岸3都県組合で締結した災害時相互支援協定を関東支部1都9県の組合に拡大する案について承認した。

講演「鉄骨加工の問題点」要旨

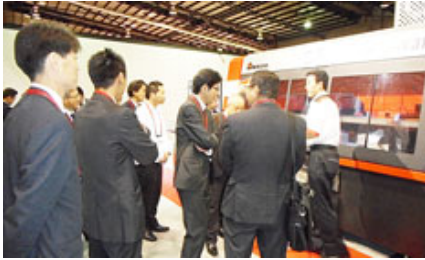
建築鉄骨の品質管理の歴史の中でもゼネコンの下請け的立場を脱却できなかつたのは残念である。鉄骨屋主導の品質管理ができていない。寸法、超音波検査を実施するのは当たり前のことだが、社内検査費用を認めてくれるゼネコンはない。検査だけでも厚い書類となってしまう提出した時は現場の建て方が終わってしまっていることもある。検査後溶接工に結果を伝達し、指導する必要があるが、大量の作業の後では時間的に管理しきれないことがある。溶接工の技量実態を一年間観察してみたところ、血液型がA型の人が最もよく、次がB型でO型が最もよくなかつた。土曜の後半と月曜の前半に欠陥率が高いという結果が出た。これらも考慮する必要がある。

若い時に横浜で仕事に携わった時の思い出に、1本いくらのハイテンションボルトの2度締めで予算オーバーとなり、それからは2度締めいくらが定着してしまい鉄骨屋が割を食うようになってしまったなどが報告された。製作外注をするなら自分の工場のレベルに合ったところに出す。第3者検査に臨むときは自分の目で事前に確認しておく必要がある。不具合があれば正直に言って作り直すこと、そうでないと判明した時に信用を落としてしまう。鉄を触れば鉄が無理しているか、叩けばウェブの厚みがわかるようになる。そうやって初めて鍛冶屋といえる。経営者は朝工場内を歩いてチェックし、工場の四隅やトイレがきれいになっているか、良くないところは従業員に注意して直させることが重要である。

JASS 6は建築鉄骨での基準となっていない。橋梁、造船からのデータに基づいている。鉄骨をよく知る我々が大梁に小梁を付けたときに熱で大梁がどれほど曲がるか、角形鋼管を切断すると残留応力がかかり切断後つなげても合わないなどこういうバックデータを全国ファブが協力して建築鉄骨でのデータを揃えて共有し、健全な経営のために活用することが大事である。

## RJNグレード部会総会が開催

5月13日(土)14時からRJNグレード部会第3回定時総会がアマダマシンツールのフォーラム246(伊勢原市)において開催された。菅原会長は「設立時の基本方針では設計からのグレード指定問題はまだ手付かずの状況であるが、資質の向上については概ね実施してきている。今後も設立趣旨に則って努力していききたい」と挨拶され、総会に入った。内藤幹事が定数を満たしているとの報告により菅原会長の議長により始まった。1号及び2号議案の事業報告・決算、事業計画・予算案が承認され、3号議案の退会による役員補充については小川雅美(有)小川工業所代表取締役社長)、近藤基行(有)湘南メタルテック代表取締役社長)の両氏が選出され、役職は次回役員会で決定することになった。4号議案の年会費徴収については徴収することにし、額や徴収方法は今後の課題となった。終了後来賓の石井副理事長が「Mグレードも設立4年後に会費を徴収したが、全国RJグレード部会連絡協議会は関西方面で会議などが開催されることが多く、出席者の旅費交通費の支出負担もあるので徴収することが望ましい。建築鉄骨を手掛けていればグレードを取得することが品質管理にとって重要である。Rグレードの方が仕事は取りやすいがJグレード取得も意味がある」と挨拶された。



次に展示場であるアマダ・ソリューションセンターを見学した。世界最速の切断機、JASS6の改正により可能となるレーザー穴あけと切断の一体型機、各種レーザー加工機など主として切断の最先端テクノロジーマシンの実演を見学した。また、共済事業のプロテクターは高速、高精度、長寿命で歯欠けに強いのが売りだが、切断面の向上、バリの抑制、低騒音などの特性を付加したプロテクターACEについての説明も受けた。その後はフォーラム内の宴会場で懇親会が催され、RJNグレード部会の結束をさらに深め19時に散会した。

## 性能評価事前研修会の開催

5月11日(木)15時から組合事務所で29年度前期審査受検企業等に対し開催された。性能評価委員会の石井委員長、星委員、岸部委員を講師として工場審査に臨んでの進行上の注意点、基準類の前回改正ポイントを中心に解説した。特に告示1464号の内容理解、基準類に審査項目ごとに付箋を付けてわかりやすくして当日の進行をスムーズにする、工場内の整理整頓の重要性なども力説された。そして古藤塾長からいただいた基準類や鉄骨精度基準の参考例が資料配布されてこれも参考にするように伝えられた。また、Mグレードの品質管理責任者の管理技術者兼務は



30年度後期申請までは認めて33年度末までに解消することも説明した。参加者は5社7名だった



次に展示場であるアマダ・ソリューションセンターを見学した。世界最速の切断機、JASS6の改正により可能となるレーザー穴あけと切断の一体型機、各種レーザー加工機など主として切断の最先端テクノロジーマシンの実演を見学した。また、共済事業のプロテクターは高速、高精度、長寿命で歯欠けに強いのが売りだが、切断面の向上、バリの抑制、低騒音などの特性を付加したプロテクターACEについての説明も受けた。その後はフォーラム内の宴会場で懇親会が催され、RJNグレード部会の結束をさらに深め19時に散会した。



## 第26回全国青年部連合会通常総会<報告>

5月20日(土)に北海道の札幌パークホテルにおいて全青会総会が開催され、田中会長、小泉関東ブロック担当、柳川副会長と私の4名が参加しました。今回は「新3kへ向けて～『感謝』『感激』『感動』～」のテーマのもと総会と分科会が行われ、稲森全青会会長は「昨年から全青会の環境は一変し、親会からの補助もなく厳しい状況にあり、各県青年部に大変ご迷惑をおかけしている」と挨拶され、通常総会は第1号議案から第5号議案まで滞りなく承認された。引き続き「工場から見たこれからの鉄骨業界」と「鉄骨業界の魅力」について2班に分かれてグループディスカッションが行われ、最期に現在会社が抱えている問題点、変えていくべき点などグループごとに意見発表がなされた。

懇親会では地元の石丸太鼓の元気な演奏で幕を開け、来賓の米森全構協会長、北海道知事、札幌市長の挨拶があり、全国から100人以上が集まり、会話も弾んで短い時間ではあったが有意義な時間を過ごせました。[鈴木]

